

編 集 後 記

今月から、「震災後の子どもたち」が始まります。阪神大震災から半年が経ちました。震災を体験した子どもたちはその後どうしているのでしょうか。現地で子どもたちのために心を尽くしている方々に何回かにわたって書いていただく中で、「想像力を働かせながら子どもと共にある者の役割を一緒に考えていきたい」（本誌P.15）と思っておりません。書いていただける方をご存じの方は編集部までお知らせください。

*

「ここから先は子ども席」の永野さんのお話では、「ひばぼたあむ」のような人形劇団を含めた児童劇団

は、現在全国に百以上もあるそうです。そして、その中のいくつかの劇団が、今、大打撃を受けているそうです。それは、この四月から休みになった第四土曜日のために、小学校でまず削られたのが観劇だったこと、幼稚園の観劇を支えてきた、バザー開催が、最近の若いお母さんたちに敬遠されがちなことによるそうです。

私はこの話を聞きながら、日本で初めて幼稚園での人形芝居を上演したと言われる倉橋惣三のことを思い出していました。彼は、子どもたちの喜ぶ顔を見て、その初演の直後に、この人形芝居をすべての幼稚園に広めたいと思ったのです。それから七十年たった今、その喜ぶ顔が見られなくなっていくのだったら、それは、とても残念なことです。

(A)

幼児の教育

第九十四巻 第九号

(一九九五年九月号)

定価四五〇円(本体四三七円)

発行 平成七年九月一日

編集兼発行人 田代和美

発行所 日本幼稚園協会

〒112東京都文京区大塚二一〇一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

印刷所 図書印刷株式会社

〒108東京都港区三田五二二一

発売所 株式会社 フレーベル館

〒113東京都文京区本駒込

六一一四一九

☎〇三三五三九五六一六〇四

振替 〇〇一九〇一二一九六四〇

☆ 本誌ご購入のご注文は発売所フレー

ベル館にお願いいたします。

☆万一、落丁・乱丁などがございましたら、おとりかえいたします。